海部郡衛生処理事務組合
次期ごみ処理施設建設事業

優先交渉権者選定基準書

令和6年3月

海部郡衛生処理事務組合

1 優先交渉権者選定基準書の位置付け

海部郡衛生処理事務組合次期ごみ処理施設建設事業優先交渉権者選定基準書（以下「基準書」という。）は、海部郡衛生処理事務組合（以下「組合」という。）が発注する海部郡衛生処理事務組合次期ごみ処理施設事業（以下「本事業」という。）を実施するに当たり、豊富な経験と高い技術を有する事業者を、公募型プロポーザル方式により選定するための基準を示すものである。

2 審査の基本的な考え方

審査は、参加者の提出書類や提案内容が、募集要項（プロポーザル説明書）や要求水準書（工事発注仕様書）に規定する内容を満足していることの確認、提案内容の妥当性や確実性に関して評価を行うことを目的とする。

なお、組合は、必ずしも本事業の実施に当たって、確保している財源（予算）の上限を使用して最大の提案を求めるものではなく、限りある財源で、参加者の創意と工夫により、より良いものを適正な価格で建設できる提案を求めるものである。

3 審査方法

基準書に基づく審査は、以下の手順により実施する。

1) 資格審査

参加者から提出された参加資格確認申請書類により、プロポーザルの参加資格要件を有していることを確認する。

2) 基礎審査（提出書類の確認）

参加者から提出された技術提案書に記載された内容が要求水準書（工事発注仕様書）に規定する内容を満足しているか等の審査を行う。なお、参加者が1者のみである場合も審査を行う。

審査は、募集要項（プロポーザル説明書）に規定されている技術提案書に記載された内容が、要求水準書（工事発注仕様書）に規定された要求水準を満足しているか又は要求水準を満足する見込みがあるか及び予算額（予定）の超過などの確認を行う。

3) 技術審査

(1) 非価格（技術）要素の審査

技術提案書のうち、最終の技術要素の提案内容について審査し、非価格（技術）要素提案審査における評価項目及び配点に基づいて非価格（技術）要素評価点を決定する。

(2) 価格要素の審査

技術提案書のうち、最終の見積額について、価格要素評価点を決定する。

4 審査結果の点数化

(1) 非価格（技術）要素の評価

非価格（技術）要素については60点を満点とし、非価格（技術）評価における評価項目、評価の視点及び配点（4ページ参照）に基づいて評価を行い、その結果に基づいて点数化を行う。点数化は、海部郡衛生処理事務組合次期ごみ処理施設整備建設事業に係るプロポーザル方式受託者特定審査委員会（以下「審査委員会」という。）にて実施する。

技術提案に関する点数化方法は、下記のとおり算出する。なお、計算された点数については、小数点第3位を四捨五入して、小数点第2位として評価を行う。

●評価審査基準

評価段階	審査基準	点数化方法
A	提案が特に優れている	配点×1.00
B	提案が優れている	配点×0.75
C	要求水準書の記載に沿った提案をしている	配点×0.50
D	提案に疑義がある	配点×0.25
E	具体的な提案がない	配点×0.00

●評価点 = Σ （各委員における各項目の採点【配点×評価段階】）÷委員数

(2) 価格要素の評価

価格要素の評価については40点を満点とし、次に示す方法で算出する。なお、計算された点数については、小数点第3位を四捨五入して、小数点第2位として評価を行う。

なお、予定価格を上回る見積金額を提案した場合は無効とする。

点数 = 配点 × 最低入札価格 ÷ 当該入札価格

(3) 総合評価点の算出及び優先交渉権者の選定

非価格（技術）要素評価点と価格要素評価点の合計点を総合評価点とし、総合評価点の最も高い提案を示した参加者を優先交渉権者に、次点の参加者を次点交渉権者として選定する。

総合評価点 = 非価格（技術）要素評価点 + 価格要素評価点

なお、総合評価点が最も高い応募者が2者以上あるときは、非価格（技術）要素

評価点の高い応募者を優先交渉権者とする。さらに、非価格（技術）要素評価点も同点の場合は、組合が作成するくじにより優先交渉権者を選定する。

(4) 優先交渉権者の決定

審査及び選定結果を踏まえ、組合において優先交渉権者及び次点交渉権者を決定する。

評価項目	評価の視点	配点	
1. 適切な環境保全対策を講じる施設	①周辺環境保全への配慮	●公害防止基準値を確実に遵守するための対応策	6
		●施設の停止トラブル等、緊急時の対応策	
	②地球温暖化への配慮	●二酸化炭素排出削減に関する提案	6
		●省エネに関する提案	
	③作業環境への配慮	●ごみ処理施設特有の災害防止対策	6
		●焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策	
●感染症防止対策に配慮した施設整備計画			
2. 将来に向けて安全かつ安定的に処理できる施設	①施設計画及び配置計画	●合理的な動線計画	6
		●次期整備予定のストックヤード施設と有機的に機能する施設計画	
		●機能性、メンテナンス性及び安全性に配慮したプラント設備の配置計画	
		●周辺環境と調和のとれた意匠計画	
		●施設来場者への環境情報提供機能	
	②安定稼働計画	●ストーカ炉の性能を安定的に維持する技術	5
		●1炉体制でも安定稼働を実現する無理のない操炉計画	
		●ごみ量やごみ質の短期的及び長期的な変動に対する対応	
	③施設施工計画	●工事中に発生する濁水、騒音・振動、粉じん等の処理、低減等に関する周辺環境保全計画	5
		●既存施設の安定稼働に配慮した工事車両の動線、工事実施時期等	
●敷地の条件(敷地面積、地盤等)を考慮した施工方法			
○配置予定技術者の実績			
3. エネルギーの有効利用に優れた施設	①エネルギーの有効活用	●熱利用率(計画値)を安定的に維持するための現実的かつ有効な計画	3
		●熱利用率の向上に関する提案	
	②資源の有効活用	●不燃ごみ・粗大ごみ中の資源回収に対する混在防止対策	3
		●薬剤の低減化などの省資源化に関する対応	
4. 敷地の諸条件に適合し、経済性に優れた施設	①維持管理コストの低減	●20年間の用役費及び点検補修費	3
		●用役費及び点検補修費の低減化に向けた対応	
		●1炉構成を踏まえた合理的な補修計画の提案	
	②施設の長寿命化	●施設を20年以上稼働する場合の長寿命化の提案	3
5. 災害時の廃棄物処理等を想定した施設	①施設の強靱化	●地震などの災害に強い施設計画	5
	②災害等への対応	●自然災害や停電等緊急時における対応	5
		●災害廃棄物を処理するための設備対応	
		●災害時における施設活用に関する提案	
6. その他	①地元貢献	●建設工事中における地元企業の活用	3
		●上記以外の地元貢献に関する提案	
	②同種工事の施工実績(過去15年間)	○20t/日以上焼却施設の施工実績	4
		○同種工事の施工実績(エネルギー回収型廃棄物処理施設とマテリアルリサイクル施設の併設)	
合計		60	

※○: 定量評価、●: 定性評価